marantz®

# Model PM-13S2 / PM-15S2 取扱説明書

Integrated Amplifier

# 安全上のご注意

**ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。**
**お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。**

## 絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

**警告**　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

**注意**　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

**警　告**

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。

- 本機の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落し込んだり、水を入れないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、まず本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにしてください。電源コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。電源コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、本機を落したり、キャビネットを破損した場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- 本機に付属している電源コードのみ使用してください。他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。電流容量などの違いにより火災・感電の原因となります。

## 警告

● 風呂場や窓ぎわで雨などがかかるおそれのある所等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

● 本機に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

● 表示された電源電圧(交流 100 ボルト)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
● 本機を使用できるのは日本国内のみです。電源周波数は 50Hz 地域または 60Hz 地域でご使用できます。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。
● 本機の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があけてあります。次のような使い方はしないでください。
- 本機をあお向けや横倒し、逆さまにする。
- 本機を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
- 本機の上に物を置く。

● 本機の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。
火災の原因になります。
● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
● エアコンの下に置かないでください。エアコンから水滴が滴下した場合、汚損・故障・火災・感電の原因となります。

● 本機の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
● 本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

## 注意

● オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
● 電源を入れる前には、音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

● 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
● 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
● お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所や湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
● ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所や振動のある所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
● 次のような異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

- 窓を閉めきった自動車の中
- 直射日光が当たる場所
- 火や暖房器具など熱を発生する機器の近く

● 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
● 本機の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
● 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

● 5 年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。
機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

この度はマランツ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになった後は､「保証書」とともに大切に保管してください。

## ■ 付属品の確認

ご使用の前に下記の付属品がそろっていることをご確認ください。

- リモコン ........ 1個
- 電池（単4） ........ 2個
- 電源コード ........ 1本
- 取扱説明書（本書） ........ 1冊
- 保証書（箱に貼付） ........ 1枚

# 目次

# 本機の特長

上級機 PM-11S2 で培った最新の技術を導入し PM-15S2 が誕生しました。その PM-15S2 にハイグレード部品を投入し更に磨きをかけたのが PM-13S2 です。

### ● HDAM-SA3 モジュール

電流帰還型アンプの要となるアンプモジュールで、最重要部である電圧 - 電流変換部に搭載し回路の安定度を向上させハイスピードサウンドを支えます。

### ● コンスタント・カレントフィードバック・フォノイコライザー

可聴帯域内における電流帰還量を一定にする方式の MC/MM 対応フォノイコライザーアンプです。この方式はノイズ感が少なく全帯域に渡り非常にスムーズなサウンドを実現します。

### ● リニアコントロール・ボリューム

MAS 社の MAS6116 と反転 NF 型電流帰還アンプと組み合わせたボリュームコントロールアンプです。アンプ部は HDAM-SA3 と HDAM-SA2 を組み合わせたフルディスクリート構成です。

### ● CD ダイレクト入力バッファーアンプ

スーパーオーディオ CD の高音質をダイレクトに伝送するため、入力端子の直近に HDAM-SA2 を使った入力バッファーアンプを装備しました。

### ● V/I サーボ方式電流帰還型パワーアンプ

パワーアンプの安定度を更に高めるため、出力オフセット電圧の変動を電流に変換し電流モードで補正する V/I サーボ方式を開発しました。V/I サーボ方式は音質と安定度を両立させた新方式です。

### ● F.C.B.S.

最大で 4 台までの PM-13S2 もしくは PM-15S2 を F.C.B.S. 接続し連動動作させることができます。2 台でコンプリートバイアンプ、3 台で 5.1ch マルチチャンネルなど可能性が広がります。

### ● パワーアンプ・ダイレクト・イン

この機能を使うと本機はパワーアンプとして動作します。フロントパネルのボタンで ON/OFF できますので AV 用途への発展も可能です。

### ● 二重シールド・トロイダルトランス

### ● ダブルレイヤードシャーシ

**以下は PM-15S2 に比べて PM-13S2 がグレードアップしている項目です。**

### ● 銅メッキシャーシ

### ● 5mm 厚アルミトップカバー

### ● 大容量ブロックコンデンサ

### ● 大容量二重シールドトランス

### ● スターキャップコンデンサ

# ご使用の前に

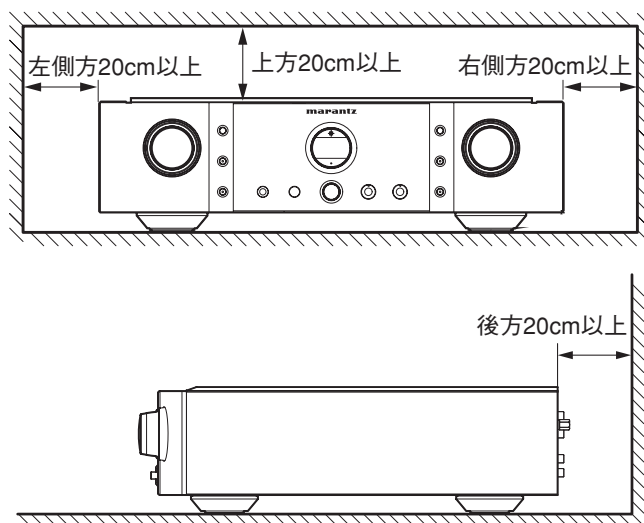
## ご使用いただく電源電圧・周波数

- 電源電圧は、交流 100V をご使用ください。
- 電源周波数は、50Hz 地域または 60Hz 地域でご使用できます。

## 設置についてのご注意

本機を末永くご使用いただくために、次のような場所には設置しないでください。

- 直射日光が当たる所
- 暖房器具など熱を発生する機器に近い所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 振動のある所
- ぐらついた台の上や傾斜のある不安定な所
- 窓ぎわで雨などがかかるおそれのある所
- アンプ等の発熱の多い機器の上

放熱のため、本機を下図の通りに壁や他の機器等から離して設置してください。

### ■ 上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。通風孔をふさぐと事故や故障の原因になります。

### ■ ⚠ 高温注意

使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外の部分は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。
特に高温注意マークのある面及びその周辺は高温になりますので絶対に触れないでください。

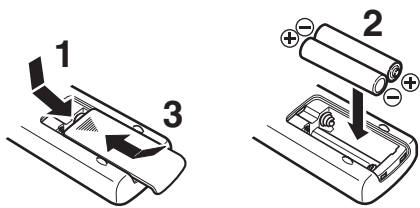
# リモコンの使用について

## ■ リモコンに電池を入れる

付属のリモコンを最初にご使用になる前に、リモコンに電池を入れてください。
付属の電池はリモコンの動作確認用です。

**1.** 電池カバーをはずします。

**2.** 電池を極性表示（⊕ プラスと ⊖ マイナス）に注意し、表示通りに正しく装着します。

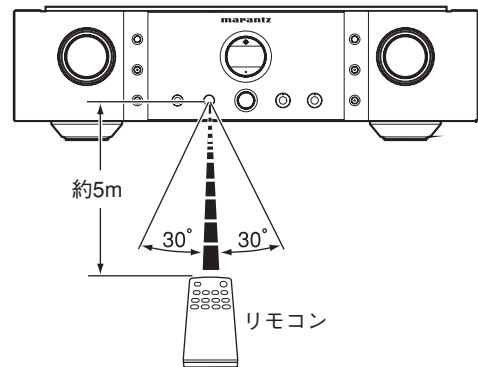
**3.** 電池カバーを元に戻します。

### 電池の取扱いについて

電池を誤って使用すると、液もれや破裂、腐食などにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
以下の注意をよく読んでご使用ください。

- 電池のプラス ⊕ とマイナス ⊖ の向きを機器の表示通り正しく入れてください。
- 電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがありますので、指定以外の電池は使用しないでください。 また、新しい電池と古い電池を混ぜたり、種類の違う電池を混ぜたりして使用しないでください。
- 電池は充電しないでください。
- 電池はお子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- 電池は金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。
- 長期間（1ヶ月以上）リモコンを使用しない時は、電池の液もれを防ぐために電池を取り出しておいてください。もし、電池が液もれを起こした時は、素手で液にさわらずに、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。この際、液が皮膚や衣服に付着すると火傷するおそれがありますので、取扱いには十分ご注意ください。誤って液が付着してしまった場合は、ただちに水道水で洗浄し医師の診断を受けてください。
- 電池は加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

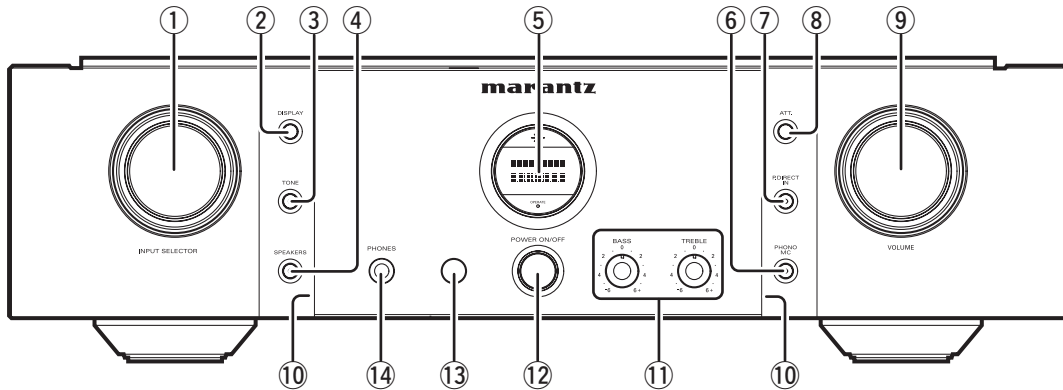
> - 不要になった電池を廃棄する場合は、テープなどで絶縁をし、お住まいの地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
> - 電池は火のそばや直射日光のあたるところ、炎天下の車内、熱器具の近くなど高温の場所に置かないでください。

## ■ リモコンの動作範囲

リモコンによる本機の操作可能範囲は下図のとおりです。

### ● 使用上の注意

- リモコンの受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。リモコンが操作できない場合があります。
- リモコンを操作すると、赤外線で操作する他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると操作できません。
- リモコンの上に物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

# 各部の名称

## 前面

### ① INPUT SELECTOR つまみ

再生／録音する入力ソースを選択するつまみです。
選択した入力ソースはディスプレイに表示されます。

### ② DISPLAY ボタン

ディスプレイおよびイルミネーションランプを点灯／消灯させるボタンです。
**イルミネーションランプの設定のしかた**は 19 ページを参照してください。

### ③ TONE ボタン

トーンコントロールつまみで調整する機能を ON/OFF させるボタンです。

### ④ SPEAKERS ボタン

後面パネルの SPEAKER SYSTEMS 端子に接続されているスピーカーの出力を ON/OFF するボタンです。ヘッドホンをお使いになるときはこのボタンでスピーカー出力を OFF にしてください。

### ⑤ 表示部

選択した入力ソース名や音量および設定状況を表示します。

### ⑥ PHONO MC ボタン

PHONO イコライザーの設定を MC または MM に切替えるスイッチです。
お使いになるカートリッジのタイプに合わせて正しく設定してください。

### ⑦ P.DIRECT IN ボタン

このボタンを 3 秒以上押すとインジケーターが点灯し、本機はパワーアンプとして動作します。
**このとき、VOLUME つまみを回しても音量を変えることはできません。**
パワーアンプダイレクトモードを解除する場合は、もう一度このボタンを 3 秒以上押してください。
7 ページの ❺ P.DIRECT IN 端子も参照してください。

### ⑧ ATT ボタン

音量をワンタッチで減衰させるボタンです。**減衰量の設定のしかた**は 19 ページを参照してください。

### ⑨ VOLUME つまみ

音量を調整するつまみです。音量はディスプレイに表示されます。
パワーアンプダイレクトモード時は、音量を変えることはできません。

### ⑩ イルミネーションランプ

スイッチボタン部を青い光で照らします。DISPLAY ボタンを押して点灯／消灯を切り替えることができます。
**イルミネーションランプの設定のしかた**は 19 ページを参照してください。

### ⑪ トーンコントロールつまみ（BASS、TREBLE）

低音（BASS）と高音（TREBLE）の音質を調整するつまみです。
低音と高音はそれぞれのつまみを時計方向に回すと強められ、反時計方向に回すと弱められます。
**TONE ボタンが OFF のときは、音質を調整することができません。**

### ⑫ POWER ON/OFF スイッチ

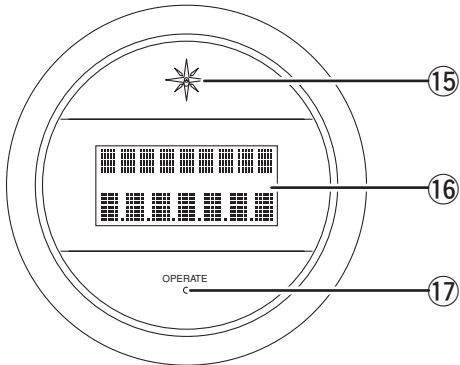
電源を ON/OFF するスイッチです。スイッチを押すと電源が ON になり、ディスプレイの青いインジケーターが点灯します。もう一度スイッチを押すと電源が OFF になります。

### ⑬ 赤外線受光窓

付属のリモコンから送られるコントロール信号を受光する窓です。

### ⑭ PHONES 端子

ステレオ標準プラグのヘッドホンを接続する端子です。

## 表示部

### ⑮ 電源インジケーター

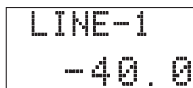
電源が ON しているときに青く点灯します。

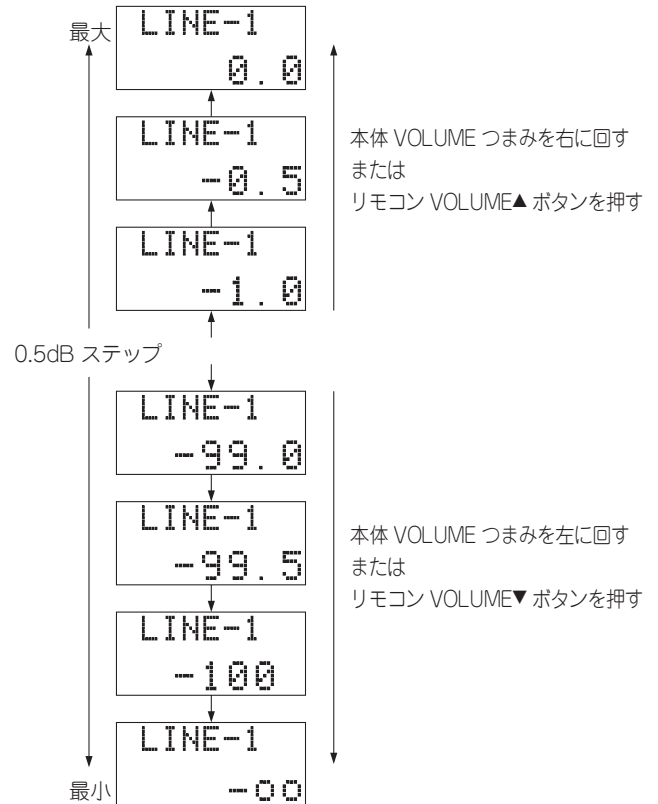
### ⑯ ディスプレイパネル

電源ON すると、約３秒間は設定されたID 番号を表示します。

ID 0

その後、上段には入力ソース名が表示され、下段には音量を表示されます。音量は減衰量（単位 dB）で表示されます。

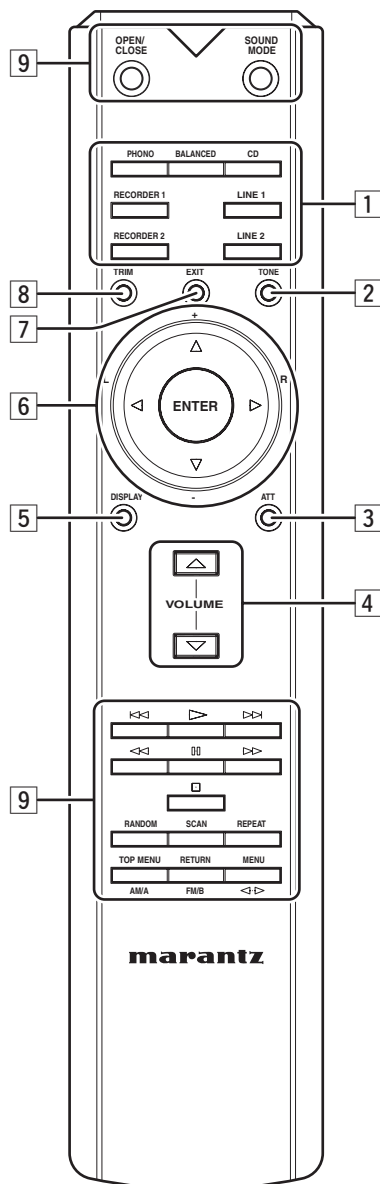
LINE-1
-40.0

パワーアンプダイレクトモード時は、音量を変えることはできません。

VOLUME インジケーター音量表示

また、左右のレベルバランス調整時は設定値を表示します。
**LEVEL TRIM 調整のしかた**は 18 ページを参照してください。
その他、動作に応じ各種メッセージが表示されます。

### ⑰ OPERATE インジケーター

本機の動作状況を表示するインジケーターです。
ID 番号が“0” の単体動作時は赤く点灯します。また、F.C.B.S. で複数台を接続した場合、ID 番号が“1” のマスターのみ赤く点灯します。このインジケーターが赤く点灯していないスレーブのアンプでは、連動する機能を操作することはできません。
**F.C.B.S. について**は 16 ページを参照してください。
保護回路が動作した時は、赤く点滅します。

## リモコン

このリモコンは本機とリモコン受光窓の付いているマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーをコントロールすることができます。リモコン操作によりコントロールできる内容が異なる場合もありますので、組み合わせる機器の取扱説明書も参照してください。

### 1 INPUT SELECT のボタングループ

再生する入力ソースを選択するボタンのグループです。

### 2 TONE ボタン

トーン（BASS/TREBLE）コントロールを ON/OFF するボタンです。

### 3 ATT ボタン

音量をワンタッチで絞るアッテネーターボタンです。
（19 ページ）

### 4 VOLUME ボタン

▲ ： 音量を大きくするボタンです。
▼ ： 音量を小さくするボタンです。

### 5 DISPLAY ボタン

ディスプレイを点灯／消灯するボタンです。

### 6 カーソルボタンのグループ

**トリム調整モードの時**

調整するチャンネルを選択およびレベルを調整するボタンとして使用します。
ENTER ： 使用しません。
▶ / R ： Rch のトリム調整を選択するボタンです。
◀ / L ： Lch のトリム調整を選択するボタンです。
▲ / ＋ ： トリム調整レベルを大きくするボタンです。
▼ / ー ： トリム調整レベルを小さくするボタンです。

**トリム調整モード以外の時**

▶ / ◀ / ▲ / ▼ / ENTER：マランツ製 DVD プレーヤーなどメニュー画面での設定項目を選択するボタンです。
対応するマランツ製品の操作については 20 ページの表および組み合わせるマランツ製品の取扱説明書を参照してください。

### 7 EXIT ボタン

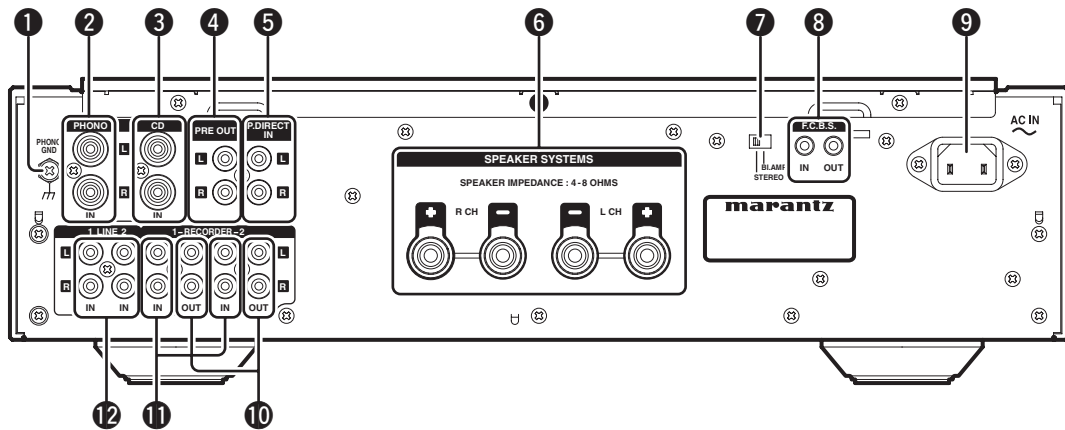
各トリム調整が完了し、トリムモードを終了するボタンです。

### 8 TRIM ボタン

各トリム調整を開始するボタンです。（18 ページ）
F.C.B.S. で複数台を連動動作している場合はトリム調整するアンプを選択します。

### 9 プレーヤーなどを操作するボタングループ

マランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーなどを操作するボタンのグループです。
対応するマランツ製品の操作については 20 ページの表および組み合わせるマランツ製品の取扱説明書を参照してください。

## 後面

### ❶ PHONO GND 端子

レコードプレーヤーからのアース線を接続してください。

### ❷ PHONO IN 端子

レコードプレーヤーに接続する端子です。
MC および MM カートリッジが使用できますので、ご使用になるカートリッジに合わせて前面パネルの PHONO MC ボタンで設定してください。

### ❸ CD IN 端子

スーパーオーディオ CD プレーヤーなどの出力端子に接続する端子です。

### ❹ PRE OUT 端子

他のメインアンプやアクティブサブウーファーの入力端子に接続する端子です。

### ❺ P.DIRECT IN 端子

パワーアンプダイレクトモードで本機をパワーアンプとして使用する場合の入力端子です。他のプリアンプをお持ちの場合はこの端子に接続してください。パワーアンプダイレクトモード時は、音量を変えることはできません。

### ❻ SPEAKER SYSTEMS 端子

スピーカーシステムを接続する端子です。前面パネルの SPEAKERS ボタンでスピーカー出力を ON/OFF することができます。
BI.AMP モードでは L チャンネルに入力された信号が両方の出力端子に出力されます。

### ❼ AMP MODE スイッチ

**STEREO：** 通常の 2 チャンネルステレオアンプとして使用する時に設定します。
**BI-AMP：** コンプリートバイアンプで使用するときに設定します。

**ステレオコンプリートバイアンプモード**については 13 ページを参照してください。

### ❽ F.C.B.S. IN/OUT 端子

本機を最大 4 台まで接続して連動動作させるときに使用する端子です。使い方および接続方法は **F.C.B.S. について**（16 ページ）を参照してください。

### ❾ AC IN 端子

付属の電源コードで電源コンセントに接続してください。使用できる電源電圧は AC100V で 50Hz の地域および 60Hz の地域です。

### ❿ RECORDER 1/2 OUT 端子

テープデッキなどの録音入力端子と接続する端子です。

### ⓫ RECORDER 1/2 IN 端子

テープデッキなど録音機器の出力端子に接続する端子です。

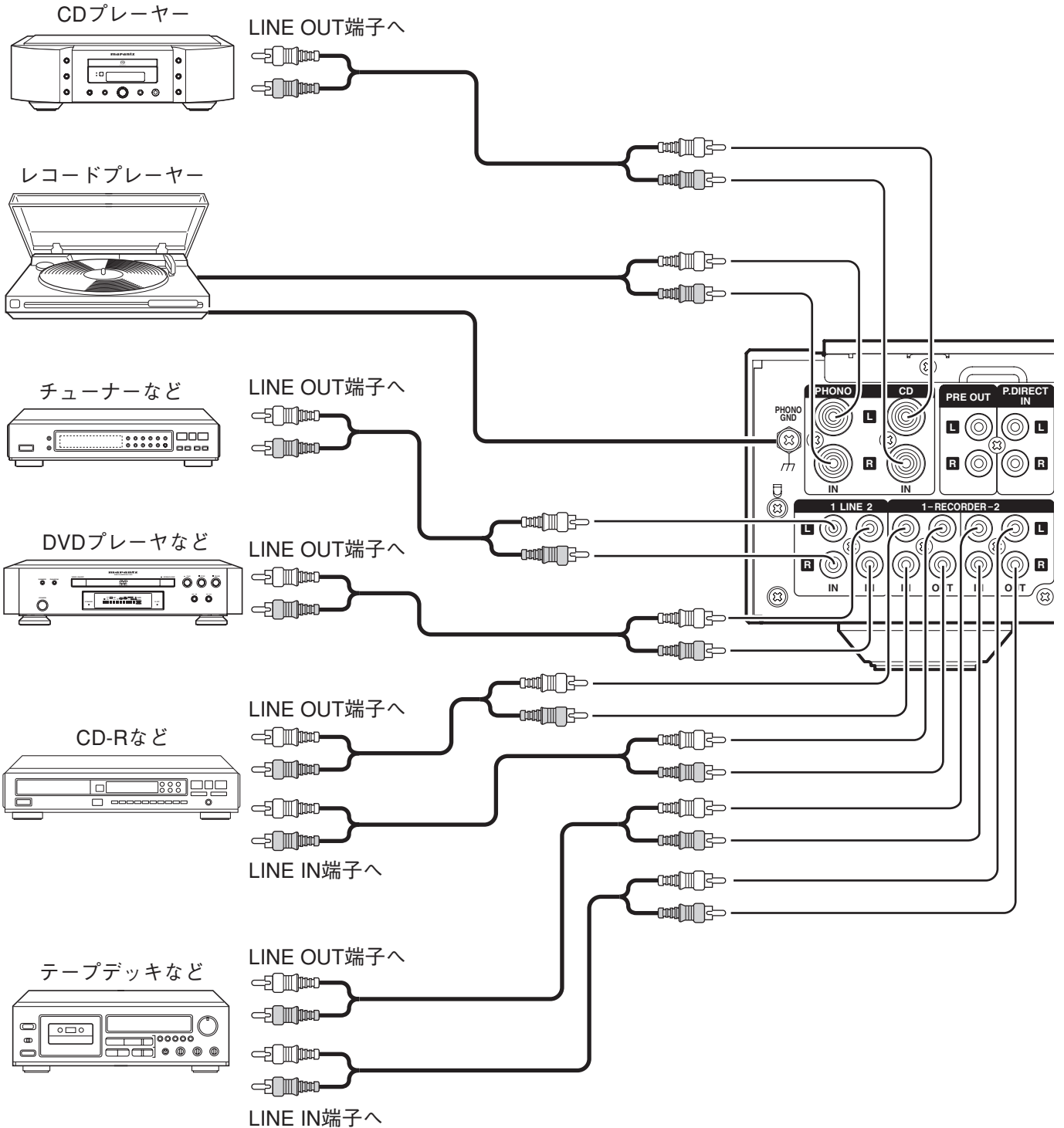
### ⓬ LINE 1/ 2 IN 端子

チューナーや DVD プレーヤーなどの出力端子に接続する端子です。

# 基本接続

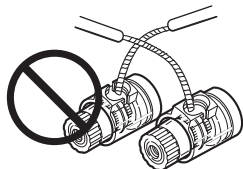
## オーディオ機器との接続

**ご注意**

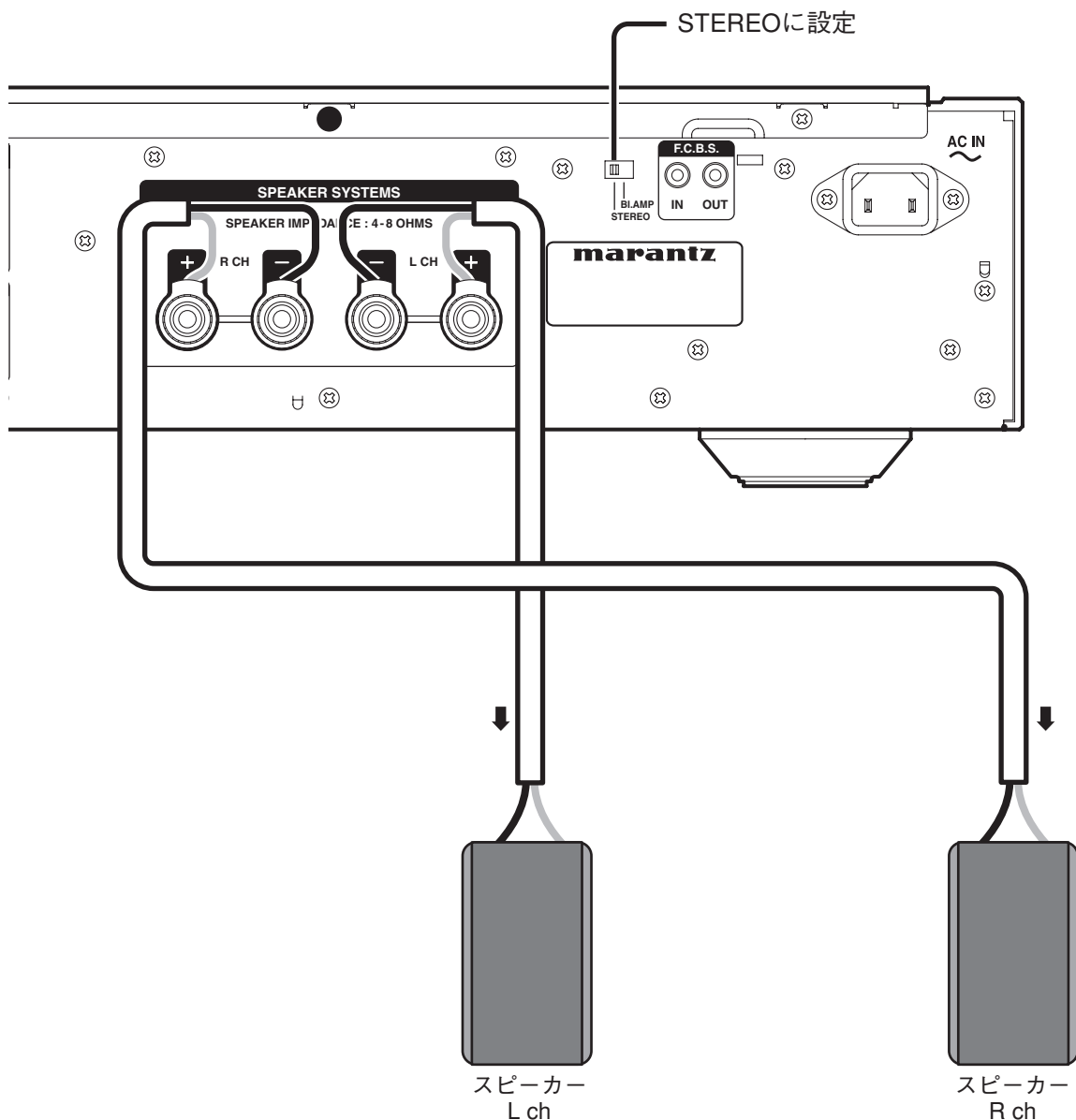
- 全ての接続が完全に終わるまで、本機や他の機器の電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。
- 接続コードのプラグは確実に接続端子に挿入してください。不完全な接続は、雑音の原因となります。
- L(左)チャンネルとR(右)チャンネルを正しく接続してください。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- 本機と接続する機器については、機器の取扱説明書を参照してください。
- 接続したケーブルを電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音が発生することがあります。

## スピーカーシステムとの接続

- お使いになるスピーカーシステムは本機のリアパネルに記載されたインピーダンスのスピーカーを必ず使用してください。

**ご注意**

- 回路の破損を防止するため、スピーカーコードの芯線同士を接触したり、本機の金属部分に接触させたりしないでください。

- 電源が入った状態でスピーカー端子に触れないでください。感電するおそれがあります。
- 1 つのスピーカー端子に 2 本以上のスピーカーケーブルを接続しないでください。本機が破損するおそれがあります。
- スピーカー端子への接続は極性を間違えずに行ってください。間違って接続すると信号位相が反転し、再生される音楽は不自然になります。

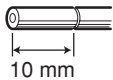
STEREOに設定

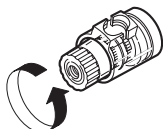
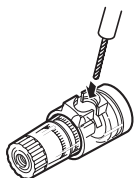
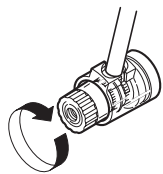
SPEAKER SYSTEMS
R CH
L CH
F.C.B.S.
IN
OUT
BI.AMP
STEREO
AC IN
marantz

スピーカー
L ch

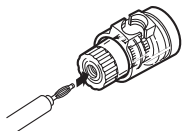
スピーカー
R ch

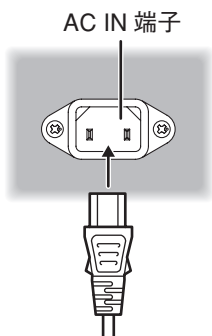
基本接続

## ■ スピーカーコードの接続

**1.** コードの被ふくを約 10mm 剥がします。

**2.** ショート防止のため、コードの芯線部分をきつくよじってください。

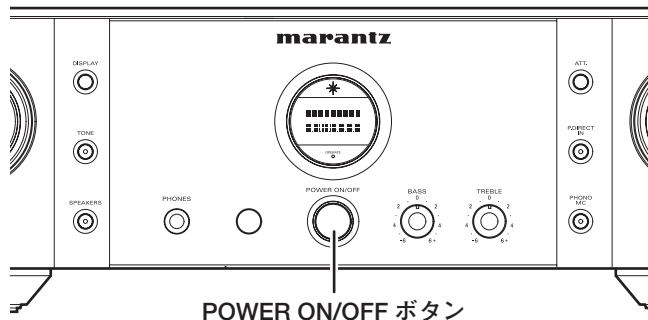
**3.** スピーカー端子を左方向に回して緩めます。

**4.** スピーカー端子の側面にある穴にスピーカーコードの芯線部分を挿入します。

**5.** スピーカー端子を右方向に回して、締めます。

### バナナプラグとの接続

バナナプラグを差し込みます。

## 電源コードの接続

**1.** 付属の電源コードを本機の後面の AC IN 端子に差し込んでください。

**2.** 電源プラグをコンセントに差し込んでください。

# 基本操作

## アンプ操作

### ■ 電源を入れる

**1.** 接続したオーディオ機器（CD プレーヤーなど）の電源を入れます。

**2.** 本機の **POWER ON/OFF** ボタンを押します。

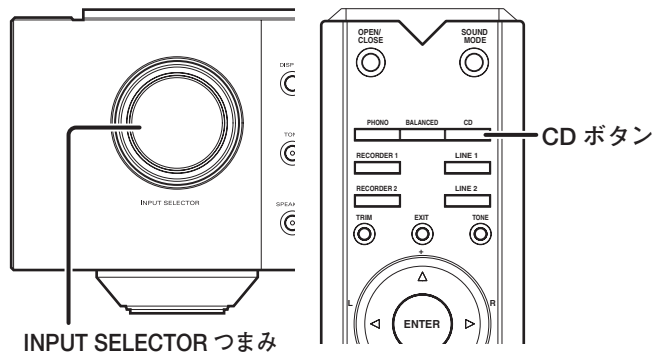
### ■ 入力ソースの選択

**例：CD を再生する**

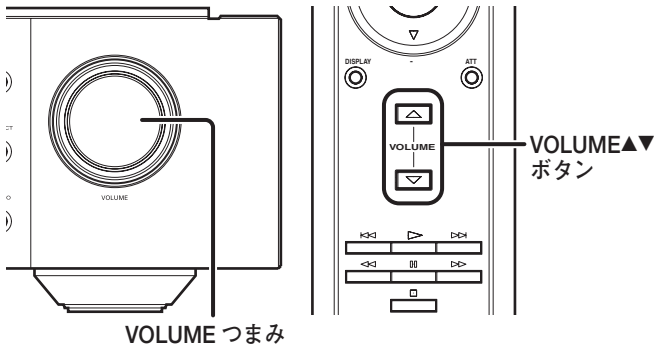
**（本機で操作する場合）**

**INPUT SELECTOR** つまみをまわして CD を選択します。

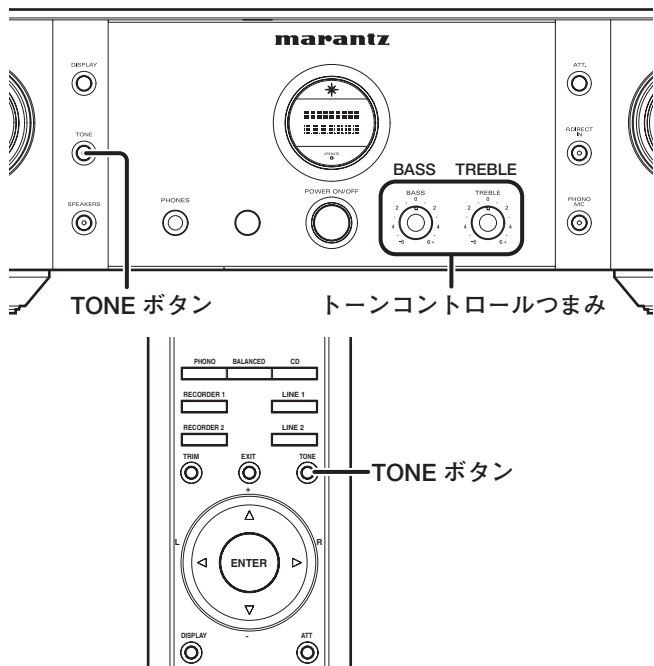
**（リモコンで操作する場合）**

リモコンの **CD** ボタンを押します。

SPEAKER SYSTEM 端子に接続しているスピーカーをお使いになる場合は、前面パネルの **SPEAKERS** ボタンを押して ON にしてください。

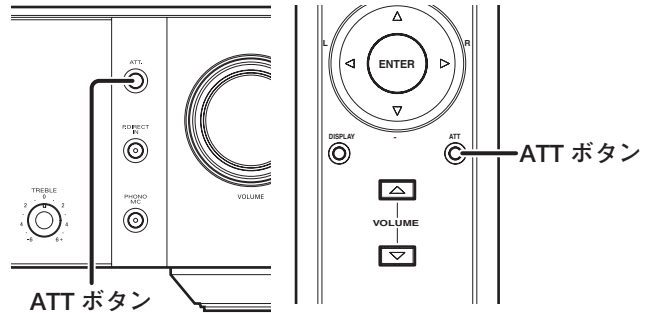
## ■ 音量を調整する

前面パネルの **VOLUME** つまみ、またはリモコンの **VOLUME ▲ / ▼** ボタンで、お好みの音量に調節します。

音量を上げるには、**VOLUME** つまみを右に回すか、リモコンの **VOLUME ▲** ボタンを押します。
音量を下げるには、**VOLUME** つまみを左に回すか、リモコンの **VOLUME ▼** ボタンを押します。
前面パネルの **VOLUME** つまみをゆっくり回すと 0.5dB ステップで微調整することができ、**VOLUME** つまみを早く回すと変化量が大きくなります。

## ■ トーンを調整する

お好みや部屋の音響に合わせて低音域(BASS) と高音域(TREBLE)を調整することができます。

トーンを調整する前に前面パネルの **TONE** ボタンまたはリモコンの **TONE** ボタンを押して ON に設定してください。
低音域を調整するには **BASS** コントロールつまみを回します。
高音域を調整するには **TREBLE** コントロールつまみを回します。

## ■ 一時的に音量を減衰させる

一時的にスピーカーからの音声を減衰させることができます。

1. 前面パネルまたはリモコンの **ATT** ボタンを押すと、出力される音量が減衰します。
2. 再度前面パネルまたはリモコンの **ATT** ボタンを押すとアッテネーターは解除されます。
   **減衰量の設定のしかた**は 19 ページを参照してください。

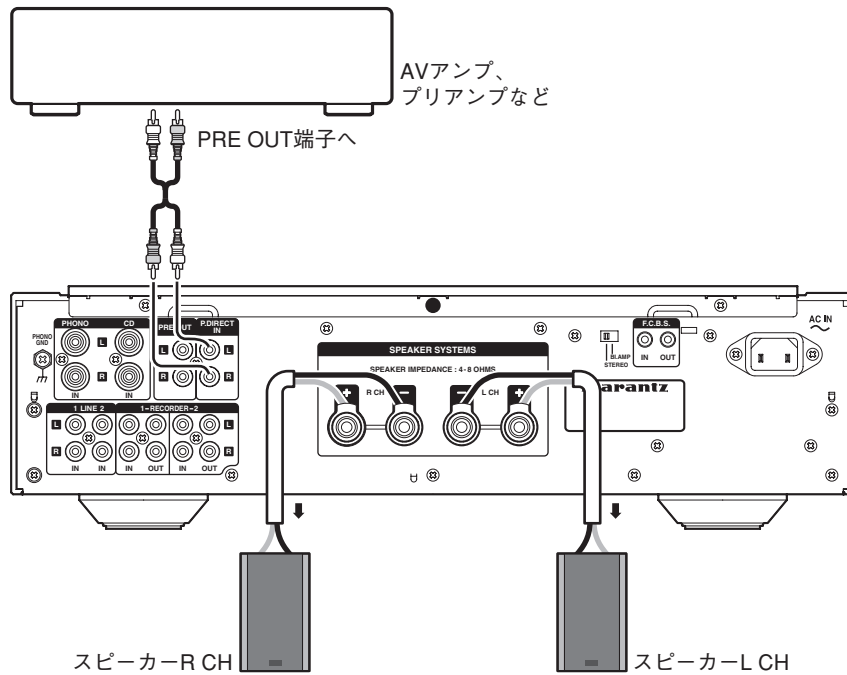
各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
応用操作
困ったときは
その他

# 応用接続

## P. DIRECT IN 端子の接続

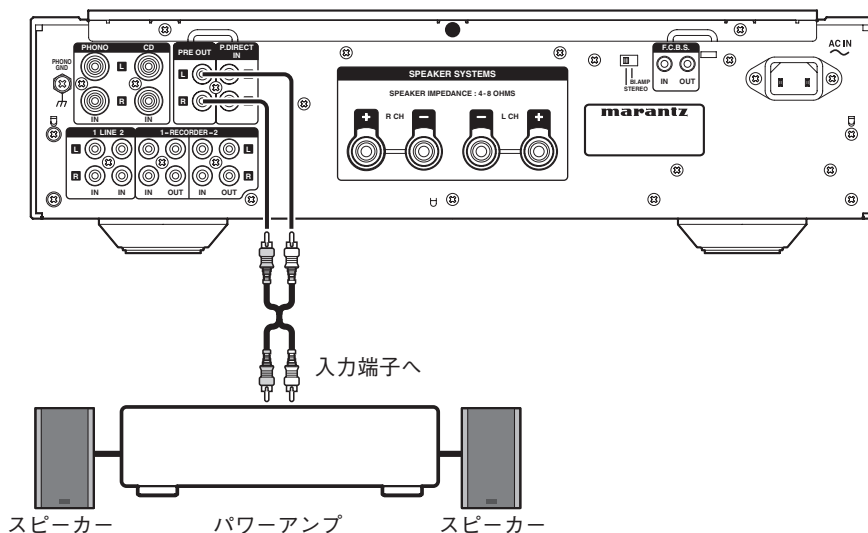
AV アンプやプリアンプをお持ちの場合は、図のように接続すると本機はパワーアンプとして使用できます。
使用する際、本機の前面パネルの P.DIRECT IN ボタンを 3 秒以上押して ON に設定してください。ディスプレイはパワーアンプダイレクトモード表示になります。

POWER AMP
DIRECT

プリアンプの使い方については、お使いになるプリアンプの取扱説明書をご覧ください。

**ご注意**

- パワーアンプダイレクトモードを解除する場合は、前面の P.DIRECT IN ボタンを 3 秒以上押してください。
- パワーアンプダイレクトモードに設定する際は、プリアンプの電源を切るか、ボリュームをしぼってから切り替えてください。

## PRE OUT 端子の接続

パワーアンプをお持ちの場合は、図のように接続すると、本機をプリアンプとしても使用できます。
パワーアンプとスピーカーシステムとの接続に関しては、ご使用になるパワーアンプの取扱説明書をご覧ください。

# ステレオコンプリートバイアンプ接続

**1.** 2 台を F.C.B.S. 接続し連動動作して使用します。**F.C.B.S. について**（16 ページ）を参照し、市販されているモノラルプラグ ⇔ モノラルプラグまたはステレオプラグ ⇔ ステレオプラグの接続をしてください。

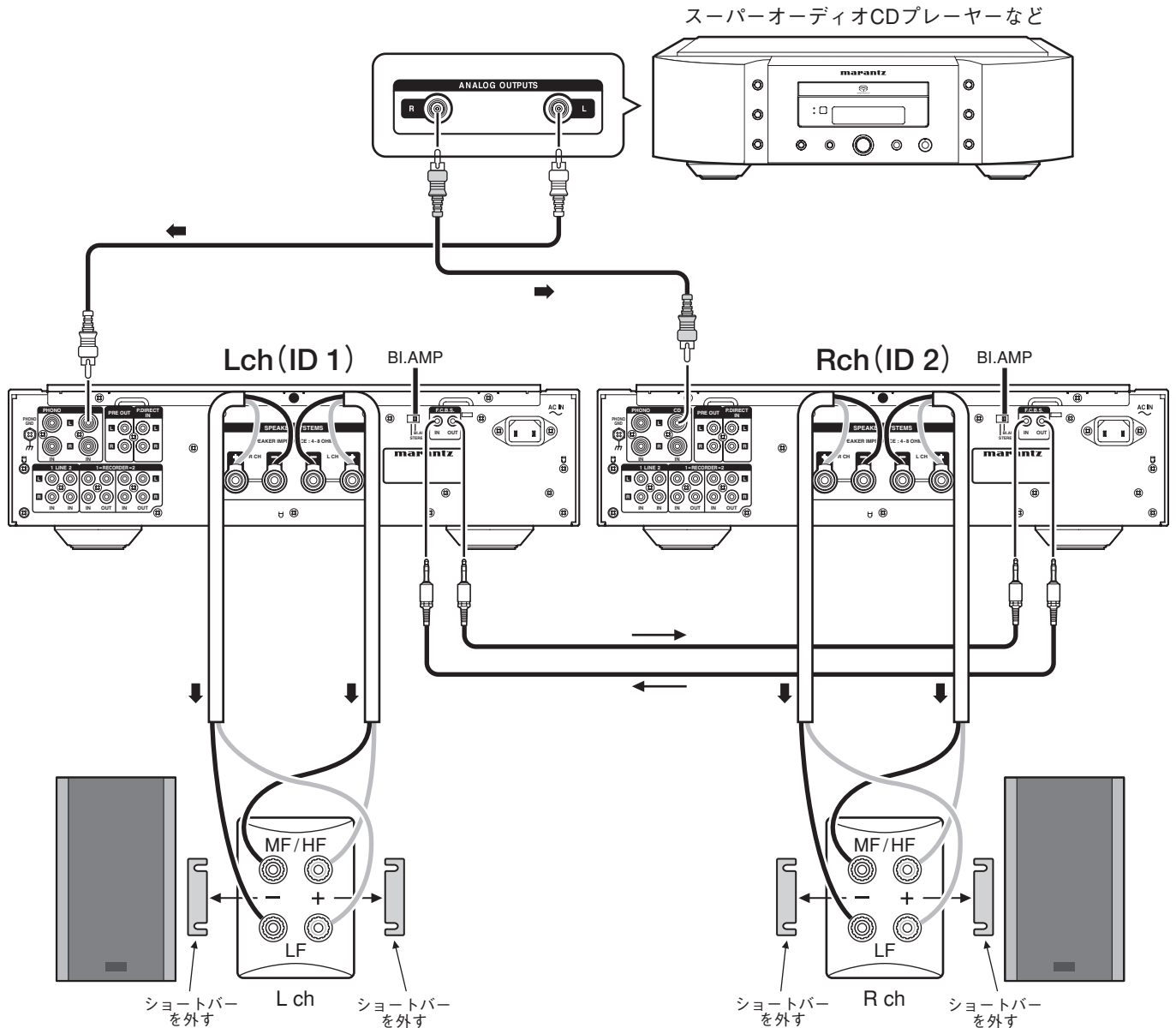
**2.** ID 番号は **ID 番号の設定のしかた**（17 ページ）を参照して設定してください。ID 1 のアンプを操作すると、ID 2 のアンプが連動します。**BI-AMP モードについて**（17 ページ）を参照して後面パネルの AMP MODE スイッチを BI-AMP 側に設定します。

**3.** CD プレーヤーなどのアナログ出力を 2 台のアンプの L ch 入力端子に接続します。
2 台のアンプは BI-AMP モードでモノラル・アンプとして動作しますので、各入力端子の R チャンネルは使用しません。
2 台のアンプのフロントパネルの SPEAKERS ボタンは ON に設定してください。

## ● コンプリートバイアンプについて

マランツが提唱する音質向上の上級テクニックで、プリアンプ部から中高音用と低音用のアンプを分離独立し、中高音と低音の干渉を極限まで減らすことができます。これにより、広大な音場空間の再現を可能にします。

**ご注意**

コンプリート・バイアンプ接続できるスピーカーシステムはバイアンプ接続に対応している必要があります。接続する前にスピーカーシステムの取扱説明書でご確認、または製造メーカーにお問い合わせください。

## ■ スーパーオーディオ CD マルチチャンネルオーディオのスピーカー設置について

スーパーオーディオ CD マルチチャンネルを最良な音場でお楽しみいただくには、ITU（国際電気通信連合）が定めた規格である 「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置をお勧めします。スーパーオーディオ CD マルチチャンネルディスクは「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置の時に最良となるようにレコーディングやミキシングがされています。

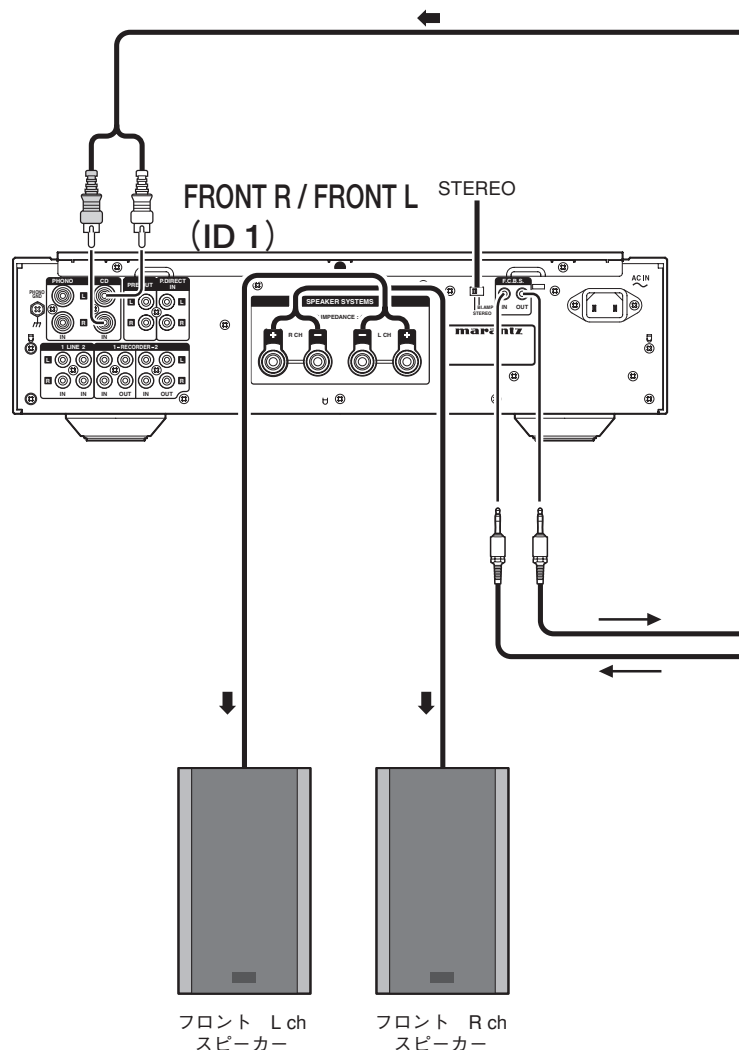
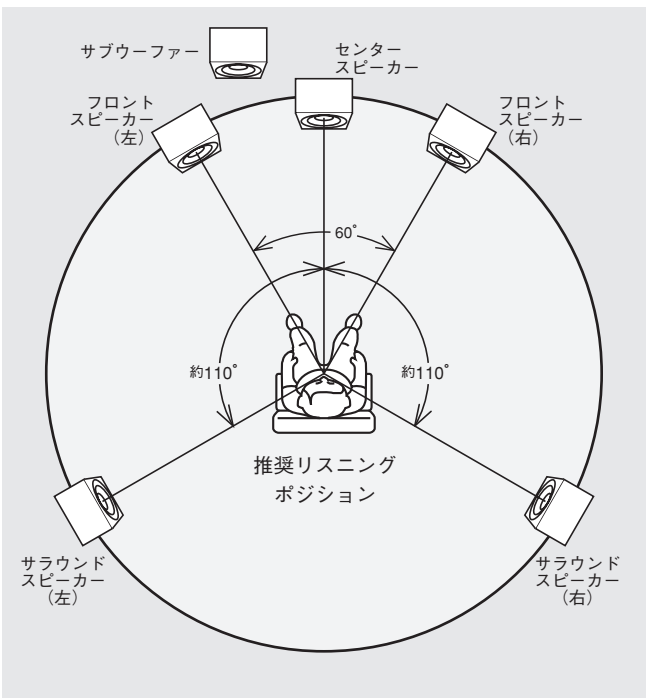
- スーパーオーディオ CD マルチチャンネルのディスクに記録されている音声信号は 5 チャンネル（3 〜 6 も可能）が基本で、6 チャンネル目として LFE（サブウーファー用）が記録されていることもあります。

  記録されているチャンネル数はディスクに表示してあります。
- スピーカーシステムの数は、フロント側 3 本、サラウンド（リア）側 2 本、の同タイプ 5 本が基本です。

  下図のように、フロント（左右）、センター、サラウンド（左右）の各スピーカーシステムはリスニングポジションを中心とする円周上に配置します。

  スピーカーシステムの大きさが異なる時は、アンプ側で各チャンネルの音量を調整してください。
- 図中のサブウーファーの配置は説明のため、仮に配置したものです。サブウーファーはお部屋の環境に合わせて配置してください。 サブウーファーの接続や設定方法は、その取扱説明書をお読みください。

### ● ITU（国際電気通信連合）

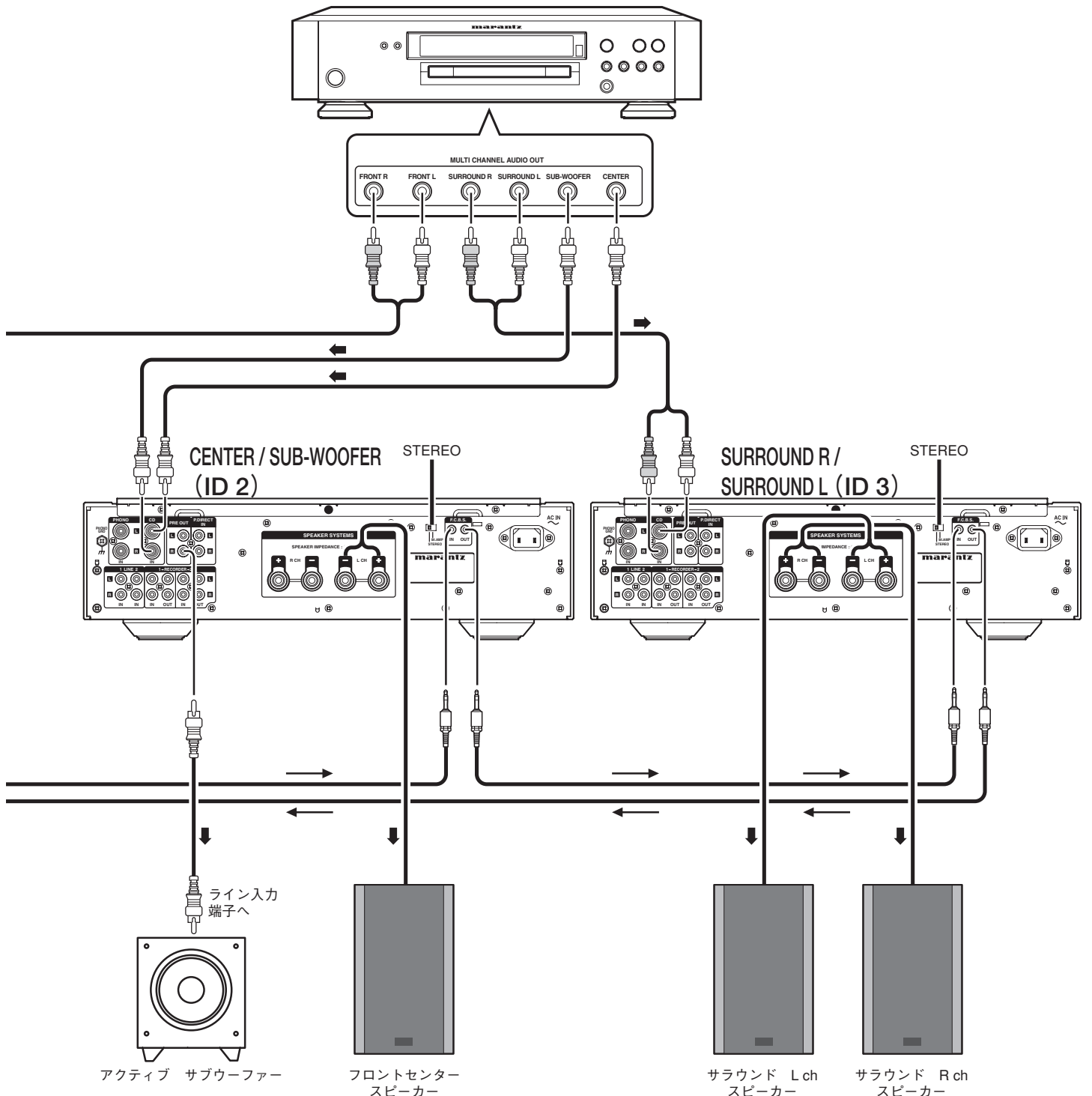
ITU は「International Telecommunication Union（国際電気通信連合）」の略で、国際連合（UN）の専門機関の一つです。ITU-R はその連合を構成する一つの部門で、「無線通信部門」です。
また勧告書の ITU-R BS は“放送業務（音声）”に関する規格で、ITU-R BS.775-1 はその中で「マルチチャンネル立体音響システム」 について定められた規格です。

## 5.1ch マルチチャンネル再生をする基本的な接続

**1.** 本機 3 台を使って F.C.B.S. 接続し連動動作させて使用します。**F.C.B.S. について**は 16 ページを参照し、市販の接続コードを 3 本用意してください。

**2.** 3 台のアンプの ID 番号を **ID 番号の設定のしかた**(17 ページ)を参照して設定してください。
ID 1 のアンプを操作すると、ID2 と ID3 のアンプが連動して動作します。

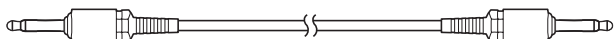
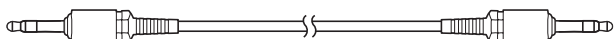
**3.** 5.1 チャンネルアナログ出力を持つプレーヤーの出力をそれぞれ 3 台のアンプに接続します。

**4.** 3 台のアンプのフロントパネルの SPEAKERS ボタンは ON に設定してください。

**5.** 後面パネルの AMP MODE スイッチを STEREO 側に設定してください。

## F.C.B.S. について

F.C.B.S.（フローティング･コントロール･バス･システム）は最大 4 台までの PM-13S2 もしくは PM-15S2 を専用のバスラインで結び、双方向データ通信により連動動作する通信システムです。

F.C.B.S. 接続をするには、市販されている両端がミニプラグのオーディオ接続用コードを、接続する PM-13S2 もしくは PM-15S2 の台数分ご用意ください。接続コードは下記 2 種類のどちらでも使用することができます。

● モノラルミニプラグ⇔モノラルミニプラグの接続コード

● ステレオミニプラグ⇔ステレオミニプラグの接続コード

**ご注意**

抵抗入りの接続コードは使用できませんのでご注意ください。

下図は 4 台の PM-13S2 もしくは PM-15S2 を F.C.B.S. 接続した例です。1 番上の ID 番号 1 のアンプがマスターとなり、ID 番号 2 ～ 4 のスレーブ機器 3 台全てをコントロールします。マスターを操作するとスレーブは入力ソース、音量、ATT 機能、ディスプレイ、トーンコントロール ON/OFF の機能がマスターに連動します。

本機を 2 台使ったコンプリートバイアンプ（13 ページ）、3 台使った 5.1ch マルチチャンネル（14、15 ページ）など多彩な用途で使用することができます。

## ■ PM-11S2 との F.C.B.S. 接続

本機は上級機の PM-11S2 と F.C.B.S. 接続しマルチチャンネルシステムを構成することができます。
ただし、PM-11S2 は本機よりも上位機能を有していることから PM-11S2 と本機を組み合わせた F.C.B.S. 接続をする場合は下記の接続条件をお守りください。

- PM-11S2 は 1 台に限定し、接続する PM-13S2 もしくは PM-15S2 は最大で 3 台までとする。
- PM-11S2 は ID 1 のマスターに限定し、PM-13S2 もしくは PM-15S2 は ID 2 から ID 4 のスレーブに限定する。

接続例は 14、15 ページの接続例を参照してください。接続例のフロント L/R チャンネル用のアンプを PM-11S2 に変更することで、フロントチャンネルの音質向上が期待できます (PM-11S2 の取扱説明書も合わせて参照してください )。
また、この接続例は 5.1ch マルチチャンネルシステムになっていますが、2ch ステレオで使用したい場合は ID 2 と ID 3 のアンプの電源を OFF すると PM-11S2 単独で使用することもできます。

**F.C.B.S. 接続した複数台のアンプの電源を ON/OFF する場合は、ID 番号の小さいアンプから順に電源を ON にして、ID 番号の大きいアンプから順に電源を OFF してください。**

# 応用操作

## ID 番号の設定のしかた

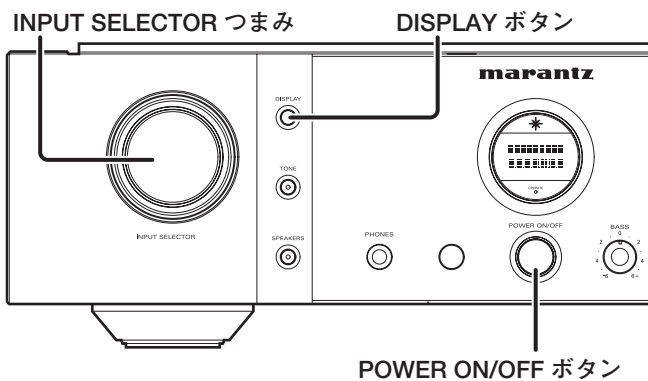
本機をステレオアンプとして 1 台で単独使用する場合は ID 番号を“0” に設定してください（お買い上げ時は“0” に設定されています）。

**ご注意**

ID 番号が “0” 以外では単独使用できません。

ID 番号は電源投入するとディスプレイに約 3 秒間表示されます。

ID 0

複数台接続して連動動作させる場合は、それぞれのアンプを識別するために ID 番号を設定します。
複数台を集中コントロールするアンプの ID を“1” に設定します。ID “1”に設定したアンプを「マスター」と呼びます。
「マスター」に連動して動作するアンプを「 スレーブ 」と呼び、ID 番号が重複しないように“2”～“4”の ID 番号を設定します。

次の手順で ID 番号を設定してください。

**1.** **DISPLAY** ボタンを押しながら **POWER ON/OFF** スイッチを押します。

ID 0

**2.** **INPUT SELECTOR** つまみを回して ID 番号を選択します。

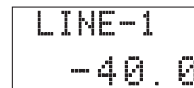
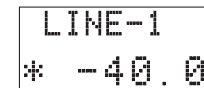
ID 1

設定が終了したら電源を OFF してください。電源を再投入すると設定が有効になり、この設定は記憶されます。

## BI-AMP モードについて

本機を 2 台使用して、コンプリートバイアンプ接続をするための BI-AMP（バイアンプ）モードを搭載しています。
コンプリートバイアンプはマランツが提案した音質を向上させる上級テクニックです。バイアンプ対応のスピーカーシステムをプリアンプ部から分離し、高音／低音それぞれのスピーカーユニットをドライブするものです（13 ページの接続例も合わせて参照してください）。

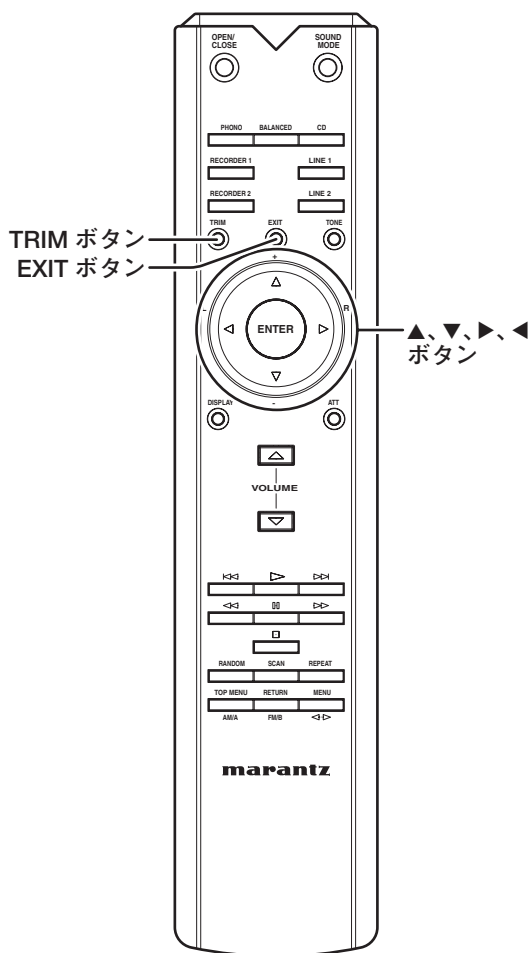
リアパネルのモードスイッチを BI-AMP 側にするとバイアンプモードになります。
バイアンプモードは、L チャンネルに入力された信号がインプットセレクター部から左右のボリュームアンプに伝送されます。
下図はステレオモードとバイアンプモードの表示例です。

| ステレオモード | バイアンプモード |
| --- | --- |
| LINE-1<br>-40.0 | LINE-1<br>* -40.0 |

**ご注意**

- MODE スイッチは必ず電源を OFF した状態で切換えてください。電源を再投入することで設定が有効になります。
- バイアンプモード時は R チャンネルの入力端子は使用できません。
- バイアンプモード時は L チャンネルに入力された信号が両方のチャンネルに出力されるため、RECORDER OUT、PRE OUT、PHONES OUT は L チャンネル、R チャンネル共に同じ信号が出力されます。

## LEVEL TRIM 調整のしかた

レベルトリム調整とは左右の音量バランスを調整する機能です。
レベルトリム調整はリモコンで操作します。

| | | |
|---|---|---|
| **TRIM ボタン** | : | トリム調整の開始およびトリム調整するアンプを選択します。複数台を連動して使用している場合は、ID 番号の小さいアンプの順にトリム調整を行います。 |
| **EXIT ボタン** | : | トリム調整の終了 |
| ▲ | : | トリムレベルを上げるカーソルボタン |
| ▼ | : | トリムレベルを下げるカーソルボタン |
| ▶ | : | R チャンネル選択するカーソルボタン |
| ◀ | : | L チャンネル選択するカーソルボタン |
| **ENTER ボタン** | : | 使用しません。 |

左右の音量を 0.5dB ステップで 0.0dB から− 9.0dB の範囲で調整することができます。工場出荷時は 0.0dB（最大）に設定されています。

**1.** **TRIM** ボタンを 1 回押すとレベルトリムモードになります。

```
L LEVEL R
 0.0   0.0
```

**2.** 点滅している左側の“0.0”は L チャンネルのレベルが調整できることを示しています。▲ または ▼ のカーソルボタンで L チャンネルのレベルを設定します。

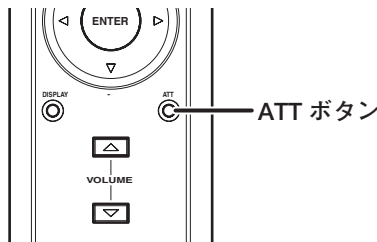
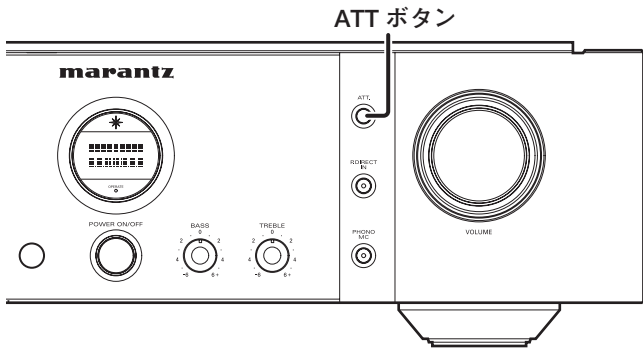
```
L LEVEL R
-6.0   0.0
```

**3.** ▶ を押すと右側の“0.0”が点滅します。点滅している右側の“0.0”は R チャンネルのレベルが調整できることを示しています。▲ または ▼ のカーソルボタンで R チャンネルのレベルを設定します。

```
L LEVEL R
-6.0  -6.0
```

**4.** 引き続き ID“2”（スレーブ）のレベルを調整する場合はもう一度 TRIM ボタンを押して上記の 1 〜 3 の手順でレベルを設定してください。もう一度 **TRIM** ボタンを押すと同様に ID“3”の調整ができます。

**5.** レベル調整を終了する場合は **EXIT** ボタンを押してください。

## ATT（アッテネーター）機能

ATT はワンタッチで音量を絞る機能です。
本体またはリモコンの **ATT** ボタンを押すと、音量が減衰します。

1. 本体またはリモコンの **ATT** ボタンを押すと、ATT の文字が点滅する表示に変わり、音量が小さくなります。
   もう一度 **ATT** ボタンを押すかボリュームをアップダウンするとアッテネーターが解除し、元の音量に戻ります。

   LINE-1
   ATT

2. ボリュームが－∞（最小）になっている時に **ATT** ボタンを押すと約 3 秒間下の図のように表示が変わり、アッテネーターは動作しません。

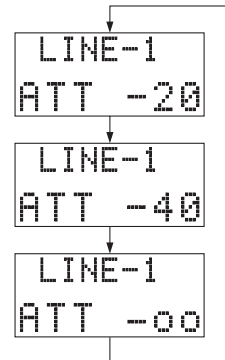
   LINE-1
   MIN

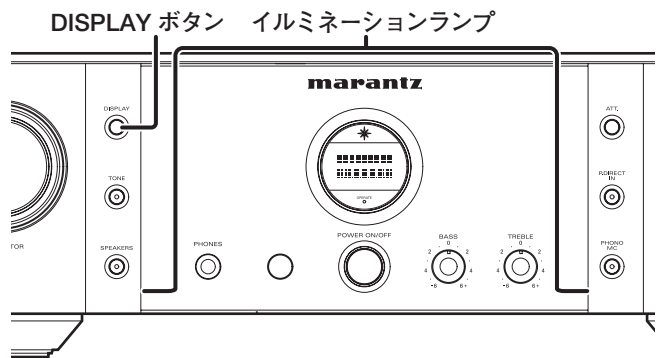
### ■ 減衰量の設定のしかた

減衰量の設定は本体の **ATT** ボタンのみ可能です。
減衰量は－ 20dB、－ 40dB、－∞のいずれかを設定することができます。
工場出荷時の減衰量は－ 20dB に設定されています

1. 本体の **ATT** ボタンを 2 秒以上押します。
   ディスプレイは減衰量表示に変わります。

   LINE-1
   ATT -20

2. 本体の **ATT** ボタンを押す度に減衰量の設定値が変わります。

3. 希望する減衰量表示の状態で約 2 秒間操作がなければ減衰量が確定します。確定するとディスプレイは音量表示に戻ります。

## イルミネーションランプの設定のしかた

イルミネーションランプは連動点灯モード（お買い上げ時）と常時消灯モードを選択することができます。
連動点灯モード時はディスプレイに連動して点灯／消灯します。

1. イルミネーションランプが点灯している状態で **DISPLAY** ボタンを 3 秒以上押すとイルミネーションランプは消え、常時消灯モードに設定されます。

2. 常時消灯モードを解除してイルミネーションランプを点灯させるには、もう一度 **DISPLAY** ボタンを 3 秒以上押します。

**ご注意**

イルミネーションランプの設定はリモコンでは変更できません。

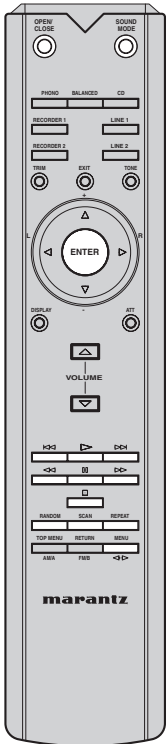
各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
応用操作
困ったときは
その他

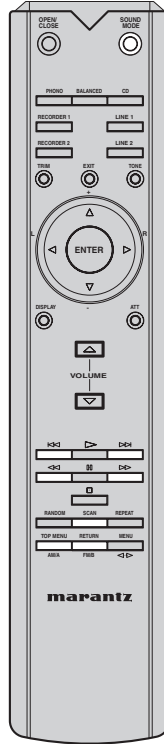
## リモコン操作

付属リモコンを使って、マランツ製品の基本操作を行うことができます。

**1.** ソースボタンを押してリモコンを操作したいソース機器のモードに切り替えます。

**2.** 以下の表を参照し、各操作ボタンを押してソース機器を操作します。
- 各ソース機器の詳細な操作については各ソース機器の取扱説明書を参照して下さい。
- 一部のソース機器は本リモコンから操作できないことがあります。

### CD プレーヤー

| ボタンの名称 | 機　能 |
|---|---|
| OPEN/CLOSE | ディスクトレイのオープン／クローズ |
| SOUND MODE | スーパーオーディオ CD のサウンドモード選択、スーパーオーディオ CD ／CD の選択 |
| ▶ | プレイ（再生） |
| I◀◀ | トラックスキップ（曲の始め / 前の曲へ戻る） |
| ▶▶I | トラックスキップ（次の曲へ進む） |
| ◀◀ | 早戻しサーチ |
| ▶▶ | 早送りサーチ |
| II | ポーズ（一時停止） |
| ■ | ストップ（停止） |
| RANDOM | ランダム再生 |
| SCAN | AMS 再生 |
| REPEAT | リピート再生 |
| MENU ◀▶ | クイックリプレイの設定 |
| ENTER | クイックリプレイ開始 |

### チューナー

| ボタンの名称 | 機　能 |
|---|---|
| SOUND MODE | オートステレオ／モノラル切替 |
| I◀◀ | プリセット局の選択 |
| ▶▶I | プリセット局の選択 |
| ◀◀ | チューニング（周波数）アップ |
| ▶▶ | チューニング（周波数）ダウン |
| SCAN | プリセット局のスキャン |
| TOP MENU/AM/A | AM 放送切替 |
| RETURN/FM/B | FM 放送切替 |

### DVD

| ボタンの名称 | 機　能 |
|---|---|
| OPEN/CLOSE | ディスクトレイのオープン／クローズ |
| SOUND MODE | 音声切換え |
| ▶ | プレイ（再生） |
| I◀◀ | トラックスキップ（曲の始め／前の曲へ戻る） |
| ▶▶I | トラックスキップ（次の曲へ進む） |
| ◀◀ | 早戻しサーチ |
| ▶▶ | 早送りサーチ |
| II | ポーズ（一時停止） |
| ■ | ストップ（停止） |
| RANDOM | ランダム再生 |
| SCAN | サーチの種類を選択 |
| REPEAT | リピート再生 |
| TOP MENU/AM/A | 最初のメニュー画面を表示 |
| RETURN/FM/B | 前のメニュー画面に戻る |
| MENU ◀▶ | メニュー画面を表示 |
| ENTER | 選択した項目を決定 |
| ▲ / ＋ | カーソルを上に移動 |
| ▼ / ― | カーソルを下に移動 |
| ◀ / L | カーソルを左に移動 |
| ▶ / R | カーソルを右に移動 |

# 困ったときは

本機が正しく動作しない場合は、下記の表に示す項目をご確認ください。
下記の項目を確認しても直らない場合は、直ちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げいただいた販売店、当社のお客様ご相談センター、またはサービスセンターにご相談ください。

## 全般

| 現象 | 原因 | 処置 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| 電源が入らない。 | 電源コードが正しく接続されていない。 | 電源コードを本体にしっかり差し込んでください。 | 10 |
| | | 電源プラグをコンセントへしっかり差し込んでください。 | 10 |
| リモコンで本機の操作ができない。 | 電池が消耗している。 | 新しい電池に交換してください。 | 3 |
| | リモコンの動作範囲から外れている。 | リモコンの動作範囲を参照して、動作範囲でご使用ください。 | 3 |
| | 本機とリモコンの間に障害物がある。 | 障害物を取り除いてください。 | 3 |
| | 本機の受光部に強い光が当たっている。 | 受光部に強い光が当たらないようにしてください。 | 3 |
| スピーカーから音が出ない。 | スピーカーの接続が不完全である。 | 本機とスピーカーとの接続を確認してください。 | 9 |
| | 入力ケーブルの接続が不完全である。 | 本機とソース機器（CD プレーヤー等）との接続を確認してください。 | 8 |
| | インプットセレクターの位置が不適当である。 | ご使用のソース機器（CD プレーヤー等）を接続した入力端子にインプットセレクターの位置を合わせてください。 | 10 |
| | ボリュームが絞ってある。 | ボリュームを調節してください。 | 11 |
| | SPEAKERS ボタンが OFF になっている。 | SPEAKERS ボタンを押して ON にしてください。 | 4 |
| | P.DIRECT IN ボタンの設定が間違っている。 | P.DIRECT IN 端子をお使いの時はボタンを 3 秒以上押してパワーアンプダイレクトモードに設定してください。 | 7 |
| | ミュート機能が動作している。 | 表示部に"ATT"が表示されているときは、本体またはリモコンの ATT ボタンを押すか、またはボリュームをアップダウンさせてアッテネーター機能を解除してください。 | 11 |
| | 保護回路が動作している。 | 一旦電源を切り約 1 分後に再度電源を入れてボリュームをもう一度調整してください。 | 23 |
| 左右の音の大きさが異なる。 | 左右の音量調整（LEVEL TRIM）の設定値が左右で異なっている。 | トリム調整を左右共に 0 に設定し、両チャンネルから音が出ている事を確認してから再調整して下さい。 | 18 |
| 左右の音が入れ替わっている。 | 左右のスピーカーまたは左右の入力コードの接続が逆になっている。 | 本機とスピーカーまた、本機とソース機器（CD プレーヤー等）の接続が左右正しいか確認してください。 | 9 |
| 音がステレオにならない。 | 後面の MODE スイッチが"BI-AMP"に設定されている。 | 一度電源を切り MODE スイッチを"STEREO"に設定して電源を再投入して正しく設定してください。 | 17 |

## PHONO

| 現象 | 原因 | 処置 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| レコード演奏中にノイズが出る。または音が出ない。 | レコードプレーヤーからのアース線が外れている。 | お使いのレコードプレーヤーのアース線が本機の PHONO GND 端子へ接続されているか確認してください。 | 8 |
| | PHONO 入力端子の接続が不完全である。 | お使いのレコードプレーヤーの出力が本機の PHONO 入力端子に正しく接続されているか確認してください。 | 8 |
| | レコードプレーヤーの近くにテレビなどがあり影響を受けている。 | 設置位置を変えてみてください。 | — |
| | PHONO MC ボタンの設定が、お使いになるカートリッジと合っていない。 | MC カートリッジをご使用される時は PHONO MC ボタンの設定を MC に合わせて下さい。 | 4 |
| レコード演奏中に音量を上げるとハウリング現象を起こす。 | レコードプレーヤーとスピーカーが近すぎる。 | できるだけスピーカーと離して設置してください。 | — |
| | レコードプレーヤーの台や床が振動している。 | レコードプレーヤーにインシュレーターがない場合は市販のインシュレーターを使用してください。 | — |

## エラーメッセージ

| 現象 | 原因 | 処置 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| エラーメッセージが表示されている。 | F.C.B.S. の設定を間違えている。 | F.C.B.S. の ID 番号を正しく設定してください。 | 17 |
| | 保護回路が働いている。 | 保護回路についてを参照してください。 | 23 |

## 保護回路について

本機にはアンプ回路およびスピーカーシステムを破損から保護する「保護回路」を搭載しています。

### ● 電源投入時

電源投入時アンプ回路が安定するまでの約8秒間、保護回路が働きミューティング状態になります。その後、アンプの回路が安定すると保護回路を解除し音が出る状態になります。

### ● 過大な電流が流れたとき

過大な信号が入力されアンプ回路に過大な電流が流れたときやインピーダンスが4Ω未満のスピーカーシステムを接続して使用したときなど、設定以上の電流を検出した場合に保護回路が働きます。誤ってスピーカーコードをショートしたときにも保護回路が働きます。

### ● 過大な超低域の信号が入力されたとき

設定以上の過大な超低域信号が入力された場合も保護回路が働きます。

### ● メインアンプが加熱したとき

過大な信号を入力された状態で連続使用した場合などメインアンプ部の温度が設定以上の温度になると保護回路が働きます。また、天面の通風孔を塞いで使用した場合や狭いラックに入れての使用した場合にも設定以上の温度になると保護回路が働きます。

この様なときは、表示部にPROTECTの文字が点滅し自動的にボリュームを下げます。そして約8秒後に保護回路は解除しますので音量を再調整してください。
また異常が継続した場合、自動的に本機の電源をOFFし、OPERATEインジケーターが点滅します。（1秒間に約2回点滅）
このときは一旦電源を切って約1分後に電源を再投入してください。

## ■ アンプが故障したとき

アンプの電源回路に異常を検出した場合は保護回路が働きアンプの電源を自動的にOFFします。また、内部のヒューズが切れた場合も保護回路が働きアンプの電源をOFFします。このときOPERATEインジケーターが点滅します。（1秒間に8回点滅）
一旦電源を切って数分待ってから再投入してください。再投入してもディスプレイが点灯せずOPERATEインジケーターが点滅している状態の場合は本機が故障していることが予測されます。
その様なときは、直ちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げいただいた販売店、当社のお客様ご相談センター、またはサービスセンターにご相談ください。

## ■ エラーメッセージについて

本機を複数台使用してF.C.B.S.連動動作をした場合、ディスプレイに下表のようなエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合はID番号の設定やリモートケーブルの接続に問題がありますので、下表を参考にしてID番号やリモートケーブルの接続を確認してください。ID番号の設定は**ID番号の設定のしかた**（17ページ）を参照してください。

| | 表示 | 意味 | 対策 |
|---|---|---|---|
| 1 | ERROR 02 | ID番号2のアンプが重複しています。 | ID番号が重複しないようにID番号を設定してください。 |
| 2 | ERROR 03 | ID番号3のアンプが重複しています。 | |
| 3 | ERROR 04 | ID番号4のアンプが重複しています。 | |
| 4 | ERROR 11 | ID番号2〜4のアンプがID番号1のアンプと通信できません。 | ID番号1のアンプに電源が入っていない場合は電源を入れてください。<br>リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。 |
| 5 | ERROR 12 | ID番号1のアンプがID番号2〜4のアンプと通信できません。 | ID番号1のアンプが重複している場合はID番号を正しく設定してください。<br>リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。 |

# その他

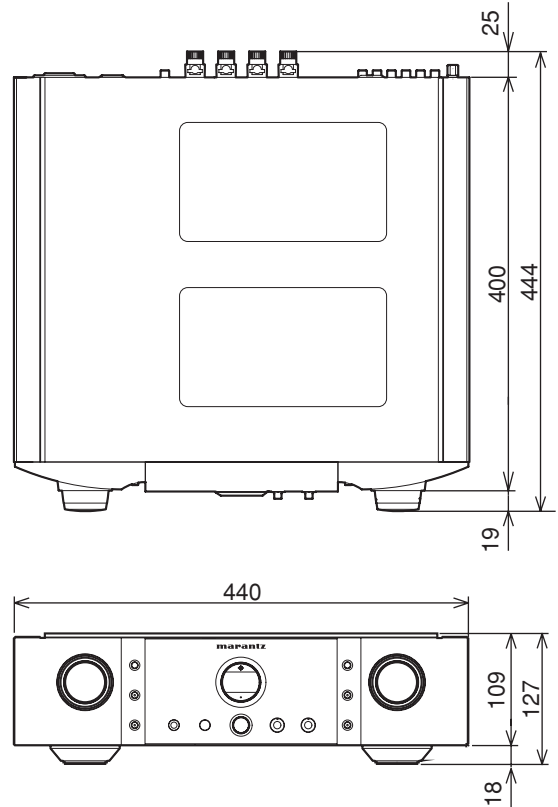
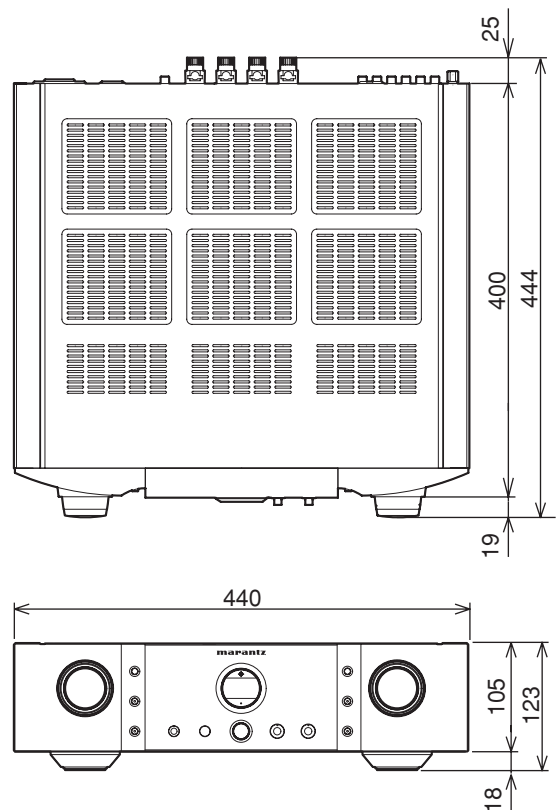
## 仕様

定格出力（20 Hz～20 kHz両ch同時駆動）
（8 Ω負荷）........................................................90 W x 2
（4 Ω負荷）........................................................140 W x 2
ヘッドホン定格出力（32 Ω負荷）........................120 mW x 2
全高調波歪率（20 Hz～20 kHz両ch同時駆動、8 Ω負荷）
........................................................................0.05 %
出力帯域幅（8 Ω負荷、0.05 %）.......................5 Hz～40 kHz
周波数特性（CD、1 W、8 Ω負荷）...................5 Hz～100 kHz
ダンピングファクター（8 Ω負荷、20 Hz～20 kHz）........ 100
入力感度/入力インピーダンス
PHONO MC.............................................270 μV/100 Ω
PHONO MM...............................................2.7 mV/47 kΩ
CD/LINE................................................... 240 mV/20 kΩ
P.DIRECT IN .................................................. 1.7 V/20 kΩ
出力電圧/出力インピーダンス
PRE OUT ....................................................... 1.7 V/220 Ω
PHONO最大許容入力（1 kHz）
MC ............................................................................. 15 mV
MM ...........................................................................150 mV
RIAA偏差（20 Hz～20kHz）.......................................±0.5 dB
S/N比（IHF Aネットワーク、1 W、8 Ω負荷）
PHONO MC（0.5 mV入力）.......................................75 dB
PHONO MM（5 mV入力）.........................................86 dB
CD/LINE（500 mV入力）..........................................89 dB
トーンコントロール.......................................................
BASS（50 Hz）........................................................±10 dB
TREBLE（20 kHz）..................................................±10 dB
電源電圧...................................................AC100 V、50/60 Hz
消費電力（J60065）...................................................220 W

本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

## 外観寸法図

（単位：mm）

● PM-13S2

● PM-15S2

**質量：（PM-13S2）20 kg /（PM-15S2）18.5 kg**

## お手入れ

- 本機が汚れた時は柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどい時は食器用洗剤を5～6倍にうすめ、やわらかい布に浸し、固く絞って汚れをふきとったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると塗装がはげたり、光沢が失われることがありますから絶対にご使用にならないでください。また、化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと変質したり、塗料がはげたりすることがありますのでご注意ください。

## ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

### ■ ヘッドホンのご使用について

ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を傷めることがあります。音量が大きくならないよう注意してください。

## 保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。
   保証書は「販売店印・保証期間」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。
2. 本体の保証期間はお買い上げ日より1年間です。
   お買い上げ販売店又は当社サービスセンターで保証記載事項に基づき「無料修理」致します。
3. 保証期間経過後の修理について。
   修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低8年間保有しています。
5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または当社サービスセンターに遠慮なくご相談ください。
6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度“困ったときは”をご参照の上よくお調べください。それでも直らない時は、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。

**ご連絡いただきたい内容**

1） 品名　**インテグレーテッドアンプ**
2） 品番　**PM-13S2 / PM-15S2**
3） シリアルナンバー（製造番号）
4） お買い上げ日　年　月　日
5） 故障の状況（できるだけ具体的に）
6） ご住所
7） お名前
8） 電話番号

marantz®

## お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間
9：30ー12：00　13：00ー17：00
（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社マランツコンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。

http://www.marantz.jp

Printed in Japan

07/2009　541110236016M　mzh-g